

2025 年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業

福島県南会津郡只見町大字黒谷 調査報告書



日本工業大学 学生環境推進委員会

2026 年 2 月

目次

1. 団体の概要
2. 支援事業活動の目的
3. 集落概要
4. 活動スケジュール
5. 実態調査
6. 課題（調査活動から得られた課題）
7. 今年度の総括
8. 次年度に向けての企画案

謝辞

1. 団体の概要

日本工業大学（埼玉県宮代町）の学生環境推進委員会は、3 学部（基幹工学部、先進工
学部、建築学部）の各学科（機械工学・情報メディア・建築学など 7 学科）を専攻する
学生で構成されています。

当委員会では、環境関連と地域連携活動を中心に行っており、SDGs の社会課題解決
に向けた幅広い活動も行っています。

環境関連活動では、エコプロ（東京ビッグサイトで行われる国内最大規模の環境展示会
イベント）への参加、植物育成プロジェクト(学内での生態系保全)、町内各種イベント、
リユース傘（本学のキャンパス内で傘の無料レンタル）、リサイクルショップ(本学の学生
向けに古着や家具を無償で回収・配布する活動)等を行っています。

地域連携活動では、宮代町民まつりや子ども大学などに企画段階から参加しています。
特に近隣の小学校 4～6 年生を対象に行う子ども大学では、工業大学ならではの科学実験
を交えた体験授業を行うことで、評価を頂いています。



植物育成プロジェクト



小学生対象の子ども大学

2. 支援事業活動の目的

2-1 背景

今回の対象となっている南会津郡只見町大字黒谷は、人口減少・高齢化に伴う生活利便
性の維持が危ぶまれています。その影響により農耕や行事存続が難しくなっています。一
方、集落の住民の方々からは、若い世代との交流・意見交換を行い、集落の活性化や維持
を図っていききたいとの要望があります。

2-2 目的

より良い地域の活性化を模索していくことを目的として、上記の背景を念頭におきなが
ら、集落活性化策に係る現地調査活動を計画し、大字黒谷地区の住民の方との交流を行

い、現地調査を兼ねた訪問と話し合いを重ね、住民の方々を知り、私たちを知ってもらう活動を考えました。

3. 集落概要

3-1 人口と面積

(1) 南会津郡只見町(2026 年 1 月 1 日時点)

【人口】	3,420 人
【男】	1,710 人
【女】	1,710 人
【世帯数】	1,470 世帯
【面積】	747.6km ²

【概要】只見町は四方を緑の山々に囲まれ、福島県の西南にあります。

清廉な川と、面積の 94%を占める森林資源に恵まれ、豪雪地帯ならではの四季の美しい移り変わりが、只見町の魅力です。

【参考】只見町 「日本の自然の中心地 自然首都・只見」

<https://www.town.tadami.lg.jp/index2.html>

(2) 只見町 大字黒谷(2020 年 10 月 1 日時点)

【人口】	114 人
【男】	61 人
【女】	53 人
【世帯数】	44 世帯
【面積】	172,283,319m ²

【概要】大字黒谷は、只見町の南東にあります。

旅館住吉屋や倉田屋旅館等の宿泊施設と喜幸飯店等の飲食店を構えており、生活環境として申し分なく、豊かな自然も散見されます。高齢化により労働者不足の問題が予想されますが、以下、図 1 から若年層も一定数居住している事が理解できます。また、職業別就業者数も表 1 に示します。

【年齢分布】

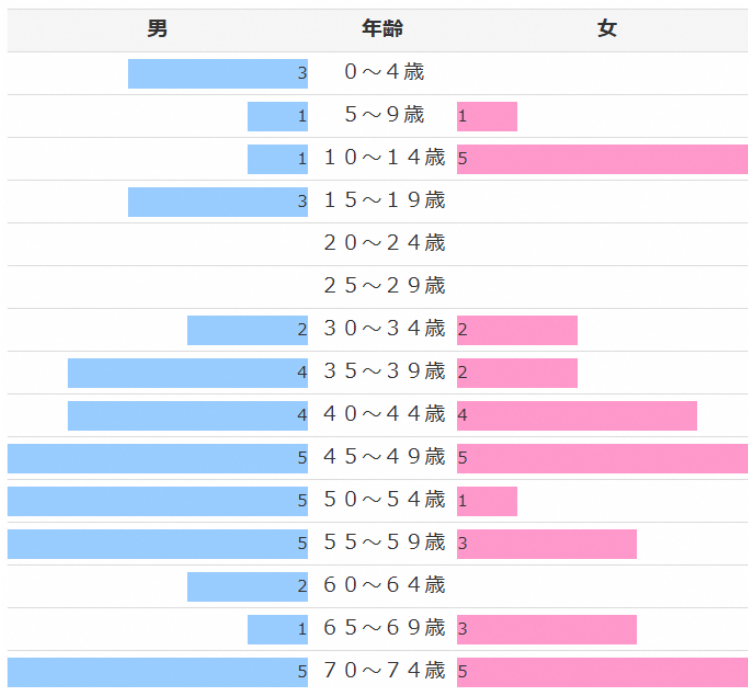


図1(福島県南会津郡只見町大字黒谷の年齢別（5歳階級、4区分）、男女別人口）

【職業別（大分類）就業者数】

表 1

総数	60		
A 管理的職業従事者	3	G 農林漁業従事者	6
B 専門的・技術的職業従事者	7	H 生産工程従事者	7
C 事務従事者	12	I 輸送・機械運転従事者	3
D 販売従事者	5	J 建設・採掘従事者	3
		K 運搬・清掃・包装等従事者	3
E サービス職業従事者	5	L 分類不能の職業	2
F 保安職業従事者	4		

【参考】・国勢調査 令和 2 年国勢調査 小地域集計(2025.04.22)

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>

・人口統計ラボ(2025.04.22)

<https://toukei-labo.com/2020/?tdfk=07&city=07367&id=21>

3-2 就業

就業者の職種として「卸売業、小売業(12)」、「医療福祉(10)」、「農業(7)」、「運送、郵便業(6)」、「製造業(6)」の順に多くなっており、近隣にヤマザキショップや飲食店があるため「卸売業、小売業」の就業者が比較的多く、只見町保健福祉センターあさひヶ丘、只見町介護老人保健施設こぶし苑等の福祉施設があるため医療福祉への就業者が多いと考えられます。只見町では2024年度から開始されたワーキングホリデーや、U・Iターン支援情報、若者定住支援事業補助金等があります。

3-3 学校

只見町立朝日小学校、只見町立只見中学校の二つが黒谷地区内にあり、他にも只見町内には、明和小学校（大字小林字上照岡）只見小学校（大字只見字上ノ原）があります。

・朝日小学校(令和6年)

【生徒人数】 45名

【教員人数】 14名

【アクセス】 JR只見駅から車で国道289号線を南郷方面へ約10分
田島駅から約60分

【概要】 少人数の学校となっており、定期的に活動の様子をブログにアップしています。

【参考】 http://kir523528.kir.jp/index.php?page_id=38

・只見中学校

【生徒人数】 約60名

【教員人数】 不明

【アクセス】 JR只見駅から車で国道289号線を南郷方面へ約10分
田島駅から約60分

【概要】 ESD、SDGsの視点を基にした教育活動が行われており、生徒会専門委員会にSDGs委員会が組織されており、積極的にESD実践も行っています。

一人一人の生徒が、自分が生きている社会や世界の課題について考え、グローバルな視点から学び、社会に貢献、発信できるようにしています。
定期的に活動の様子をブログにアップしています。

2020年に海洋教育を行っており、海洋問題に理解を深めるためにウニを育成しています。

【参考】 http://kir523528.kir.jp/?page_id=45

3-4 観光スポット

・黒谷川の大コブシ

町指定の天然記念物であり、只見町役場駅前庁舎の南東約8kmにあります。



黒谷川の大コブシ

・いわなの里

黒谷川の最上流にあり、自然に囲まれながらイワナ釣りが体験できます。炭火焼、から揚げ、刺身でイワナを食べることができます。



いわなの里 釣りぼりと食堂

・八所神社、瀧泉寺

日本各地に存在する神社である八所神社と三十三観音が祀られている瀧泉寺があります。



八所神社



瀧泉寺

4. 活動スケジュール

今回の支援事業で実施した年間活動スケジュール(月別)を表2に示します。

表2

活動時期	内容
2025 年 4 月	【学内】 ① 応募 ② 現地下調べ（各々）
5 月	【学内】 ① 応募申請 ② 会議（住民の方々とリモート会議）
6 月	【学内】 ① 選考結果通知 ② 現地調査に向けて調査行程の検討 【学外】 ① 現地調査
7 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 現地調査結果の共有
8 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 現地調査結果の共有

9 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 現地調査結果の共有 ③ 次回現地調査に向けての行程の検討 【学外】 ① 現地調査
10 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 現地調査結果の共有 ③ 次回現地調査に向けての行程の検討
11 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 現地調査結果の共有 ③ 報告書作成 【学外】 ① 現地調査
12 月	【学内】 ① 報告書作成 ② 報告会準備
2026 年 1 月	【学内】 ① 現地調査結果をまとめる ② 報告書作成 ③ 報告会準備 【学外】 現地調査予定
2 月	【学内】 ① 報告書作成 ② 報告会準備 ③ 次年度活動に向けての相談 【最終成果品提出】 ① 報告書の提出 ② 報告会出席

5. 実態調査

5-1 現地訪問による実証活動日程と内容

(1) 第一回現地活動

1日目(8月25日)

時刻	行動予定	備考
8:00	春日部駅出発(東武線)	昼食
14:00	倉田屋旅館 到着	集落の方へのご挨拶
15:00	朝日公民館 ご挨拶・打ち合わせ	区長 吉津さん、町議会議員 菅家さん、只見町役場 三瓶さん、朝日公民館 館長 五十嵐さんと相談会を行い、黒谷地区の現状と課題を知る
17:00	現地訪問	(株)トークンに訪問
18:00	倉田屋旅館 到着	夕食

2日目(8月26日)

時刻	行動予定	備考
7:30	倉田屋旅館 出発	移動
9:00	各所・地域訪問等	八所神社視察、あま淵便所視察、黒谷川視察 いわなの里訪問
13:20	黒谷地区 出発	移動、昼食

(2) 第二回現地活動

1日目(9月16日)

時刻	行動予定	備考
11:30	春日部駅発(東武線)	学生一人で9/16調査活動を行う
16:15	倉田屋旅館 到着	集落の方へのご挨拶
17:00	区長さん ご挨拶・会議会場のご紹介	区長さんから役員会議についての説明を受ける
19:00	役員会議開始	地元の方々の役員会議に参加する 大学について紹介する 普請に参加する旨を伝える
20:30	倉田屋旅館 到着	夕食

2 日目 (9 月 17 日)

時刻	行動予定	備考
8:00	大学 出発 (自家用車)	移動、昼食
13:00	朝日公民館 着	集落の方へのご挨拶
13:10	朝日公民館 相談会	9/16 の活動報告 朝日公民館 館長 五十嵐さんと相談会を行い、 黒谷地区の現状と課題を知る
14:00	現地訪問	いわなの里視察 八所神社視察
17:30	旅館みな川 到着	夕食

3 日目 (9 月 18 日)

時刻	行動予定	備考
8:00	旅館みな川 出発	移動
9:00	朝日公民館 話し合い	9/17 の活動報告・共有
10:30	各所地域訪問	Guest House ORAHO を訪問 地元の方のお宅に伺う
13:00	黒谷地区 出発	移動、昼食

(3) 第三回現地活動

1 日目 (11 月 1 日)

時刻	行動予定	備考
8:00	大学 出発 (自家用車)	移動、昼食
14:00	黒谷地区 到着	集落の方への挨拶
14:10	Guest House ORAHO での懇談会	Guest House ORAHO についての紹介を受ける (株)富士久 代表取締役 山中さんとの意見交換会
15:30	現地訪問	地元の方のお宅に伺い近況のお話をする 当日行う懇親会へのお誘い
17:30	倉田屋旅館 到着	夕食
19:30	懇親会	地元の方との意見交換会を行い現状と課題を知る

2 日目（11 月 2 日）

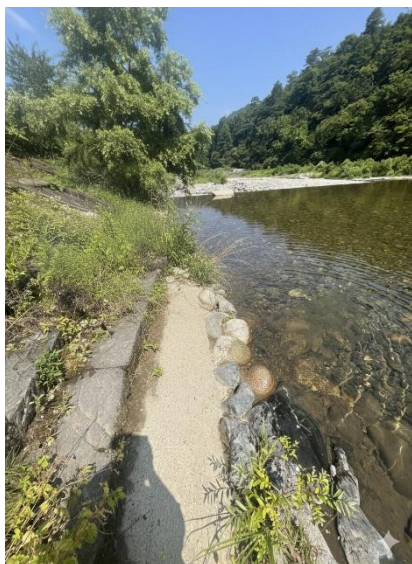
時刻	行動予定	備考
7:50	倉田屋旅館 出発	移動
8:00	普請	普請として秋の草刈りや堀払いを地元の方々と実施 集会所の雪囲いの設置を実施
12:00	黒谷地区 出発	移動、昼食

5－2 只見町黒谷地区の訪問地調査概要および感想

（1）訪問地：黒谷川周辺・あま淵便所

黒谷川は福島県南会津郡只見町を流れ、伊南川に合流する一級河川です。

河川近くには、現地の人々が管理する古民家風の「あま淵便所」があります。



黒谷川



あま淵便所

〈現地調査の感想〉

- ・現地住民の方々が愛着をもって利用されていることが分かりました。
- ・昔は黒谷川でいわな釣りがよく行われていたそうで、水がとてもきれいでした。

（2）訪問地：いわなの里

只見町黒谷にある「いわなの里」は、只見駅から車で約 20 分の場所に位置しており、営業期間は毎年 5 月～11 月頃（例：2025 年は 5 月 3 日から 11 月 3 日まで無休営業）で、営業時間は 9:30～16:00 です。

「いわなの里」は、1986 年 5 月創業の登録商標施設であり、清冽な湧き水を利用して育てたイワナ（および時期限定でヤマメ）を対象とした釣り堀と、それをその場で調理して

楽しめる食事処として人気です。

釣り用具（竿・餌）は貸出が無料で、入園料・駐車場も無料。釣った魚は 100g あたり 430 円で買い上げ、炭火焼・唐揚げ・活け造りといった調理メニューで提供できます。



釣りをしている様子

〈現地調査の感想〉

- ・森や川に囲まれており、心が落ち着く場所だと感じました。
- ・豊かな自然に囲まれていて、少し景色を眺めるだけでも心が落ち着きました。イワナの里では糸を垂らしてイワナを待つ時間そのものが癒しになる場所でした。

5－3 普請での気づき・感想

（１）訪問地：普請（秋の堀払い）

山の中の側溝や街中の側溝の中に泥が溜まって雪が流れなくなるのを防ぐために雑木林近辺で現地の方と水路の掃除をしました。

〈現地調査の感想〉

- ・野生動物が出没するかもしれない中、少数で普請を行うのは不安だなと感じました。また、現地の方との交流を通して、暮らしの様子を知ることができてよかったと思いました。
- ・山の中で行うため危険が多いと感じました。葉っぱや枝が多く散乱しており、作業を進めるのが大変でした。
- ・普段の生活ではなかなか経験できない自然の中での大変さや、体を動かして協力することの大切さを実感しました。

5－4 現地の方との意見交換

（１）訪問地：株式会社トークン

株式会社トークン所長の矢沢愛樹さんと意見交換を行いました。話し合いでは、黒谷地

区の過去から現在にかけての自然環境の変化やおすすめの観光スポット、田舎と都会の文化の違いなどについてお話を行いました。

矢沢さんのお話では、以前は黒谷川周辺で鹿やいわなが多く見ることができたが、大雨による川の氾濫により、黒谷川の環境が変化してしまって、野生動物を目にする機会が減ってしまったと嘆いていました。

また、田舎と都会の文化の違いについても教えていただきました。田舎では同じ地区に、同じ苗字の人が多くいるので、住民同士で下の名前で呼び合う文化があることを知り、地域ならではの人間関係の近さを感じることができました。



株式会社トークン 只見出張所

〈参加者の感想〉

- ・トークンでの話し合いを通して、田舎ならではの暮らしや文化を知ることが出来て、多くの新たな知識を学ぶことが出来ました。また、大学生活の中ではなかなか学ぶことのできない社会性を多く学ぶことができ、これからの人生において、とても有意義な経験ができました。
- ・この1年間で学んだことや地域との関係性を生かして、来年の活動では地区の生活環境の支援につながるような活動が出来れば良いと思いました。

(2) 訪問地：公民館

ゲストハウス「ORAHO」にて住民の方々との話し合いの場を持ちました。

- ① 地域の現状と課題について、黒谷入・あみだ道周辺は、特に少子高齢化が進んでおり、空き家も増加傾向にあることが判明しました。また、豪雪地帯特有の課題として、冬

季の除雪作業が高齢化した住民にとって大きな身体的負担となっており、作業中の転落事故の危険性があることや、融雪に効果が有り体力的に負担軽減になる井戸掘削には、多額の費用がかかるという厳しい実情が挙げられました。

② 生活・交通・就労について、住民の移動手段については、雪が降ると「ゆきんこタクシー」を利用する人が多いとの話がありました。また、移住や就労に関しては、町内に工場などの職場があることから出稼ぎに来る人もおり、自転車での通勤や寮の利用など、受け入れ環境が整っていることが分かりました。東日本大震災の事例から地震が起きた際の対応については、地区外へ避難するよりも、逆に受け入れる側になることが多いという特徴も確認できました。

③ 地域資源と獣害について、黒谷川周辺は野生動物が多く、獣害に関してはクマよりもサルの被害が深刻であり、対策として花火が支給されているとのこと。観光・レジャー面では、「いわなの里」の溪流が夏休みに繁忙期を迎える一方、ダム周辺への車での移動が難しいという課題もありました。

④ 文化・行事について、八所神社や瀧泉寺といった歴史的な場所があり、公民館活動を含め、子ども神輿など子どもを対象としたイベントが行われています。他地区との交流については、大きな祭り以外では相互に参加することは少ないという現状が分かりました。



公民館での話し合いの様子

〈参加者の感想〉

・公民館での話し合いでは、現地の方が我々大学生の考えを快く聞いて下さり、話しやすい環境を事前に準備していただいたため、限られた時間のなかでしたが、充実した話し合いができたと感じています。

（３）訪問地：ORAHO

ゲストハウス ORAHO のオーナーをされている山中美明さんへインタビューを行いました。

- ② ゲストハウスの運営状況について、ゲストハウスの利用者は夏季（７～８月）に集中し、冬季は利用が大きく減少する傾向にありました。

山中氏は只見町移住された方で、移住する前に冬期の生活環境について十分に把握した上で移住しており、「思っていた状況と違った」というギャップはほとんどなかったと述べていました。

- ② 空き家活用の実態について、山中氏は以前から空き家活用に関心を持っており、空き家バンクを通じてではなく、近隣住民から直接「買ってほしい」との相談を受けた中から物件を選定し、ORAHO を開業しました。

対象物件は土地込み金額が約 250 万円で購入し、県の補助制度も活用しリフォームしている。一方で、空き家バンクに登録されていない物件が多数存在しており、老朽化した家屋の解体にも高額な費用がかかるため、「無料でもいいから引き取ってほしい」という所有者も少なくない現状が分かりました。

- ③ 移住者の動向と課題について、移住者の主な就業先はトマト栽培などの農業分野や、町内工場での外国人雇用が多いとのことでした。夫の就労をきっかけに家族で移住するケースも見られますが、只見の生活環境に馴染めず、10 組中 9 組ほどが短期間で町を離れてしまうという厳しい実態が語られました。

一方で、子どもが生まれるなどライフステージの変化を契機に定住する世帯も存在するそうです。また、企業が大規模な空き家を購入・改修し、従業員寮として活用する動きも見られことが分かりました。

- ④ 外国人移住者への地域の受け止めについては、外国からの移住者に対し、地域住民は比較的好意的に受け入れているとのことでした。ただし、長浜地区など別荘地では、新規住民の転入自体が難しい地域も存在しており、地区ごとの受け入れ状況には差が有ることが分かりました。

- ⑤ 地域課題：獣害問題について、只見町周辺には約 40 頭のクマが生息しているようですが、人的被害はこれまで発生していません。

一方、サルによる農作物被害は深刻であり、役場から無償配布される猿よけ花火も、サルが音に慣れてしまい、十分な効果を発揮していないという課題が明らかになりました。

- ⑥ 地域コミュニティと行事について、地域では、花見など季節ごとの集まりがあり、役場が中心となって企画・運営しています。地区を越えた交流の機会は、雪まつりや「うまいもん祭り」といった大規模イベント時に限られます。

また、地域の共同作業として神社（お宮）の清掃があり、早朝 5 時から階段や境内の掃除を行っています。この当番は 10 年周期で回ってくる仕組みとなっており、住民同士の結びつきを支える重要な役割を果たしていることが分かりました。



ゲストハウスでのインタビューの様子

5－5 実態調査を終えての気づき

(1) 自然環境について

- ・普請をしているときに動物の鳴き声が聞こえた。木にも少し傷があり近くに生息していることが分かりました。
- ・カメムシが大量発生していて、住宅内にもいたことに驚きました。気温が低くなるとよくでてくると聞きました。水路の清掃をしている最中に、子ザルの頭蓋骨があったので野生動物がすぐ近くにいることを実感しました。
- ・森や川に囲まれており、心が落ち着く場所だと感じました。
- ・想像していたより、動物の活動が活発だと感じました。
- ・豊かな自然に囲まれていて、少し景色を眺めるだけでも心が落ち着きました。イワナの里では糸を垂らしてイワナを待つ時間そのものが癒しになる場所でした。
- ・昔に比べて河川環境が変化して、自然動物に出会う機会が減少しているそうです。
- ・冬に限らず、四季それぞれの魅力が十二分なほどに溢れていました。

(2) 地元の暮らしに関わること

- ・動物がとても近くに生息していることからその動物によって畑、人にも被害が出てしまう可能性があると感じました。
- ・普請で水路の掃除をしなければ、田んぼに水が引けなくなってしまうという話がありました。
- ・私が普請を行った白沢周辺では、冬場になると雪が2~3mほど積もるため12月~2月ごろの移動手段が少なくなると感じました。
- ・畑でとれた農作物などを近隣の住民と分けあうなど、協力しながら生活していました。
- ・農作物を育てている家が多いと気づきました。

- ・ いわなの里の方々が料理をふるまってくれるなど、人の暖かさがあり、釣りを通して「地元のもてなし」に触れられる暮らしの魅力を感じました。
- ・ 熊の被害はあまりないと聞きました。
- ・ 冬の厳しさについて事前に理解しておかないと、いざ住んでみたときに想像していた暮らしより大変となってしまうのだろうと感じました。

6. 課題

- ・ 現地では若い人が少なくなって普請も前より体力的にも大変になってきていることを聞き、そこでも人が減ってしまっていることが、現地での生活や行事に影響が出ていると感じました。
- ・ クマや猿が農作物を荒らしていることへの対策が未解決でした。
- ・ 雪かきなどの力仕事などが大変と聞きました。
- ・ 町の高齢化と若年層が少なく、若年層との関わりが少ないのが寂しいと聞きました。
- ・ 地域の文化や伝統的な行事の継承が少子高齢化によって難しいことが分かりました。
- ・ 高齢者と子供たちの関わりをもつ機会が少ないという声がありました。

7. 今年度の総括

今回の調査活動においては、現地の方々と関係を醸成していくことを念頭に現地調査活動を行いました。

現地調査では、八所神社・瀧泉寺、Guest House ORAHO、いわなの里などに出向き現地の方々のお話を伺いました。施設一つ一つに現地の方の深い思いとかかわりを感じ、それぞれの文化を少しですが気付くことが出来ました。

現地の役員の方々との話し合いでは、黒谷地区で昔から行われている普請の参加について、区長さんから直接お話を伺い、若者の参加意義を考える有意義なものとなるほか、自然豊かな黒谷地区ならではの山野の魅力や若い労働力不足の悩みなどを知ることが出来ました。一方で現地の子供たちと交流する機会があまりなかったことが残念でした。

8. 次年度に向けての企画案

・子どもたちとのふれあいの場の創出

① 朝日小学校・只見中学校にむけた SDGs 授業の開講

只見町の小・中学校の学童保育や SDGs、環境教育を調査の上、大学生レベルで協力できることが有れば積極的に協力したい。地域の伝統文化を継承する機会を設ける他、例えば最上流に位置する只見川源流地域であることを踏まえ、廃棄プラスチックが海洋に流れ

着く問題をメインに海洋プラスチック問題等の講義を行い、環境問題を子供たち中心に町全体で考える場を設けていきます。

② 子ども神輿に参加

地域での活動の一環として、子ども神輿の支援を考えています。神輿の様子を大学内やSNSなどで広報活動を行い、参加者を募り魅力を伝えていきます。

謝辞

今回、私たちの活動にあたり、終始ご協力を頂いた只見町黒谷地区区長の吉津栄一様を始め、町議会議員の菅家忠様、住民の皆様、只見町交流推進課主査の三瓶大樹様に深謝いたします。今回の調査・交流を通して得た知見を活かし、今後も本事業を進めていく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

【お世話になった皆様】

黒谷地区区長	吉津 栄一	様
Guest House ORAHO	山中 吉美	様
株式会社トークン	矢沢 愛樹	様
只見町議会議員	菅家 忠	様
朝日公民館長	五十嵐 貴則	様
倉田屋旅館		
森林の分校ふざわ	藤沼 航平	様
只見町交流推進課主査	三瓶 大樹	様

【今年度活動を行った学生一覧】

小島悠平、野坂滯、近藤竜毅、船渡響平、町田怜平、吉田侑生、小野柚葉、澤村尚桜、田島文斗、高橋天真、深井俊和